



動物たちの命をつなぐ税

大田区立大森第一中学校 三年 吉江 琉南

驚いた。動物園って動物を展示するだけの施設じゃないんだ。

ある日、私は何気なく開いた動画サイトで、全国のような動物園の動物たちを紹介する動画を見ていた。その動画では、動物園で行われている、あの活動を紹介していた。

それは、動物の保護活動についてのものだった。今、気候変動などによって野生動物野生動物たちの居場所が徐々に失われており、絶滅が危惧されている動物や、もつすでに野生には生息しておらず、飼育されている個体のみ動物など、絶滅の危機に瀕した動物たちが多くいる。そんな動物たちを保護し繁殖させ、絶滅を阻止しようというのだ。それでは、今までにどんな動物の繁殖を成功させているのか、インターネットで調べてみた。

例えば上野動物園では、チンパンジーやジャイアントパンダ、アライグマなどの、現在レッドリストに登録されている様々な種類の動物での繁殖をも成功させており、その功績は大きなものといえる。つまり、動物園は動物たちの種の存続のために欠かせない施設なのだ。では、その動物園の運営費の出所はどこなのだろうか。

日本の動物園は、公立動物園と私立動物園に分けられ、多くの動物園が

公立動物園に含まれる。公立動物園では、経営を市区町村や都道府県が行っており、入園料や駐車料などの収入で足りないコストを地方税で賄っている。どれくらい割合で地方税が使われているかは、それぞれの動物園で異なるが、必要コストの半分以上が地方税で賄われている動物園も多くあるのだという。地方税と聞いただけでは、「大人が払うものではない」とか「私達学生にはまだ関係ない」などと思う方もいるかもしれないが、地方税には、地方消費税も含まれている。地方消費税は、モノを買うときに消費税と共に課せられる税で、地方消費税・消費税合わせて十パーセントの税率となっている。商品を買うときに元の金額の十パーセントも上乗せされた額を払わなければいけないのかと、これまで億劫な気持ちでレジにお金を出していたが、その税の使い道のひとつが分かったことで、これからは今までより気持ちよく消費税を納めることができるだろうと思う。

もし税金がなければ、公立動物園の運営費が十分に集まらず、現在動物園で保護されている動物たちの生活が脅かされてしまうことになる。すると、人の支えが合えば守ることができたはずの種も、絶滅してしまう可能性がある。

そもそも、気候変動には人為的要因も含まれており、動物たちの減少には、人間の行為も影響しているのだ。だからこそ、人間はこれからも責任を持ってこの問題に向き合い、ひとつでも多くの種を残せるよう、力を尽くすべきだ。